

通し番号	中学校区	No.	大項目	小項目	分類	未回答	質問内容	回答
204	桜が丘中学校区	1	再配置の方向性	個別施設			当地区には、県の施設ですが、あすなろがあります。県の施設と共同運営することは難しいですか。	大変素晴らしい着眼点だと思います。施設の適正な総量を確保するためには、県有施設や近隣市と広域連携を当然研究していくことが必要になってまいりますので、このようなことの可能性も検討していきたいと思います。
205	桜が丘中学校区	2	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと			掛川市と同じ規模の市をベンチマークしていますか。どの市をねらいにして、こうだと説明していただければ納得しやすい。	平成28年3月に公共施設等総合管理計画を策定する中で、多種の事例の確認をしております。県内の事例でございますが、掛川市の全公共施設の面積が45万平方メートルでございます。1人あたりの面積については3.88平方メートルということで、県内では1人あたりの面積が5番目に多い面積ということになっております。とは言いましても、1人あたりの面積が多いのは御前崎市や熱海市等で人口規模の比較的小さい市が中心になっております。人口規模の近い藤枝市は、公共施設の面積31万平方メートル未満ということになっておりますので、現状の認識では掛川市の公共施設面積はだいぶ多いということで認識しております。
206	桜が丘中学校区	3	再配置の方向性	交通手段			統合・複合化は大変良い方法ですが、その場所まで行く方法（インフラ）はどのように考えますか。	場合によっては、施設が現在の場所よりも皆様のご自宅から遠くなるようなケースも出てくるのかなと思います。そういう場合には、移動手段のない子供達や高齢者の方々が行きづらくなるという可能性もございます。 これについては、当然色々な手段の確保というのが重要なテーマになってまいります。一例を申し上げますと、スクールバス等が朝夕運行する場合に昼間の空いた時間に高齢者の方にご利用いただくようなことを検討しながら、移動手段の確保に努めていきたいと思っています。
207	桜が丘中学校区	4	再配置の方向性	計画の見直し			再配置計画が長期になりすぎているか。	50年の長期計画でございますので、計画自体は10年間のスパンで社会経済情勢等を鑑みながら修正・変更をしております。その際には、もちろん地元の皆様、地域、それから利用される関係の方々ともご相談をさせていただきたいと思っております。 また、人口の関係につきましては、当然人口の増減により施設の利用状況等も変更があると思います。大切な視点だと思いますので、その時点で再度検討していきたいと思っております。
208	桜が丘中学校区	5	再配置の方向性	小中学校の再編			人口問題の推移ですが、2040年目標人口を12万人と設定しているが、1期10年の間に再配置計画された物件について、増減があった場合は、どう変更していくのか。人口増加した場合、小学校は仮校舎（プレハブ等）が必要でないか。	本計画については、50年という非常に長い計画期間になりますので、10年ごとに社会経済情勢や市民ニーズの変化、それから進捗状況等を考慮して見直しをしていくということでございます。
209	桜が丘中学校区	6	再配置の方向性	防災			統廃合時の各小中学校が持っている、大規模災害時の避難所機能の検討に触れられていないが、どのように考えているのか。	非常にそれぞれの地域にとって大切な視点だと思います。災害時の避難所機能というのは当然今回の統合や複合化という中でもこの機能は確実に検討していかなければならないと考えておりますので、その際にはもちろん地域の皆様とご相談させていただきながら、機能のことを考えていきたいと思っております。
210	桜が丘中学校区	7	再配置の方向性	官民連携の推進			統廃合時に、団地などの施設の民間譲渡はあるのか。早い時期に民間の活力を入れた方がいいのではないのでしょうか。	不要となりました施設や土地については、譲渡・売却ということで考えていきたいと考えております。その際には、地域の皆様ともご相談をさせていただきますけれども、民間譲渡を考えていきたいと思っております。

211	桜が丘中学校区	8	再配置の方向性	目標設定	根拠		この計画でいくら削減されるのか。	今回、今後50年間で掛川市が施設維持、再整備する費用は2034億円を見込んでおります。2034億円に対しまして、掛川市が用意できる、充てられる財源は430億円ということでございまして、試算上は1604億円が不足するというようになってまいります。そのため今回25%の面積削減というものを示したわけですが、いくら削減されるかというご質問に対しては、およそ1600億円の削減をしていきたいということでご理解をいただければと思います。
212	桜が丘中学校区	9	再配置の方向性	その他			施設の耐用年数は60年？自治会所有の公民館はどうなる？耐用年数は60年ですか？	RC、鉄筋、それから鉄骨非木造は60年、木造は30年と今回設定をさせていただいております。それぞれの構造と言いますか、造りによって耐用年数というのは変わってくるということでご理解をいただきたいと思います。
213	桜が丘中学校区	10	再配置の方向性	財源不足			国や地方の税制を変えて、必要な費用を捻出することは考えられませんか。国や地方の税収を地方に厚くすることにより、解決できる面は多くあると思います。	地方の税財源のご質問ですけれども、皆様ご存知だと思いますけれども、国全体の税のうち約6割が国の財源、4割が地方の財源と言われておりまして、逆に支出の方はおよそ6割が地方の支出というようなことがありますので、そういったところの税財源のいびつさを是正していく必要があると思っております。もちろんこれは、国や県のこともありますので、全国市長会等を通じて要望をしていきたいと思っております。
214	桜が丘中学校区	11	再配置の方向性	個別施設			ゆうゆうパークが令和2年度に一部建設が行われるという情報がありますが、いかがですか。防災関連の施設が建設されるニュースがあります。	ゆうゆうパークにつきましては、今年度・来年度におきまして防災公園としての整備、例えば地下式の調整池を造ることや、釜戸ベンチ、防災あずまやを造る等、そのような計画になっておりますので、よろしく願いいたします。
215	桜が丘中学校区	12	再配置の方向性	その他			インフラに関して、現状維持とのことだが、今後市道の新設は全く行わないという理解で良いか。	道路のインフラにつきましては、現在、維持更新までに必要となっている予算の範囲内で、適正管理に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
216	桜が丘中学校区	13	再配置の方向性	個別施設			学習センターや学童保育所などが、学校施設との共用化が計画されているようだが、教育委員会として、日常的に地域住民や一般人が学校内（校舎内）に入ってくることにに対して同意が得られているか。	先程、三重県の亀山市と松阪市の学校の様子についての説明がありましたけれども、そういった子供だけの生活場所としての学校ではなくて、地域の皆様も利用できるような学校施設ということで、施設の複合化という話になりますけれども、全国的にそういったのを含む複合化された学校施設が今後できるということで、色々な地域や自治体で静岡県内の他の自治体でも検討しているところでございます。もう既に磐田市等もそういった学校を造るということでございます。今後そういった学校がいろいろなところでできてくるのではないかなと思います。同意が得られているかということで、これは危機管理の面でご心配いただいているものと思うのですが、そういった部分をしっかり定めて、行き来ができるような状況にしていきたいと思っておりますし、安全管理上、当然問題が無いようにセキュリティの面、そういったことについても、その時の一番最善が尽くせるような状況で建築していきたいと考えております。

217	桜が丘中学校区	14	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的	和田岡小と原谷小の統合はあるのか。	<p>この2つの学校ですが、和田岡小にしても原谷小にしても、いわゆる我々は小規模校という言い方をしております。1学年に1学級しかない学校のことです。6年生までで言いますと6学級ということになります。そのような小学校が掛川市に全部で小学校22校あるのですが、そのうちの半分の11校が、和田岡小、原谷小のように1学年1学級しかない学校でございます。掛川市の22校の小学校の半分が今すでにそういった状態になっております。これは今の状況ですが、令和元年度、これが今の0歳児が小学校に入る頃令和7年度になりますと13校に増えます。このような状況で、少子高齢化の中で子供の数が減るという中でそういった状況になります。</p> <p>今後ですが、学校再編を進めている中に今のご質問あった和田岡小と原谷小との統合があるかということですが、どこの学校ということも含めて適正規模・適正配置の考えの基に統合していくということを考えて検討しております。その時、先程申し上げましたが基本的には現状の中学校区をベースに考えております。教育委員会としては考えておりますが、ただ、財政的なもの、それから地域性のもの、色々な視点からご意見を今後いただく中で、その9中学校区が多少崩れた形で統廃合していくということも全く無いわけではございません。なので、色々な角度から検討を今後していくところであります。</p> <p>もう一つ補足しておきますと、掛川市は今現在ですが小中一貫教育校を造ろうということで、今、原野谷学園と南部の城東学園の2つの中学校区で小中一貫教育のカリキュラム研究をやっていて、いわゆるソフト面です。どういう教育をしていくかということの研究をして、3年間の研究が今終わったところで、その内容を全ての中学校区に広めて将来的には全ての中学校区に小中一貫校を造っていきたいということを教育委員会としては考えております。ですから、先程ご質問ありました市内全体の小中学校の再編の中で、できる限り現状の9つの中学校区単位で小中一貫校ができればということで検討しております。</p>
218	桜が丘中学校区	15	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的	和田岡小と桜木小が再編された場合、建築場所はどこにするのか？和田岡小と原谷小の再編はあるのか。もし再編するのであれば、地域の中央にしてほしい。	<p>先程と同様に再編するかまだ検討中なので申し上げられないのですが、色々な課題も出てくるかと思えます。当然、場所についてもバスを使うにしろ、本人になるにしろ、自転車に乗る人もなるべく通いやすい、それと子供の安全・安心というのが第一と思うわけですが、そこも含めながら検討をしていくと考えております。</p>
219	桜が丘中学校区	16	再配置の方向性	小中学校の再編	具体的	原谷小、原田小、原野谷中、和田岡小、桜木小、桜が丘中をすべて小中一貫でやるのは可能か。	<p>先程申し上げましたように基本的には、地域性が多少異なってくると地域の方々もやりづらさというのはあるかもしれませんので、基本的には今のところ各中学校区単位で考えております。原野谷中学校区と桜が丘中学校区、全部一緒にした場合、子供の数だけで大体1000人を超えます。私どもは国からの指導もございまして、適正規模・適正配置という考えの基に学級編制を行っています。1000人を超えると大きくなりすぎてしまって望ましい指導としては、教員側の立場になりますけれども、非常に厳しいものもあるのではないかと思います。そうやって考えると、現時点ではこの原野谷中学校区と桜が丘中学校区、全部合わせてということは少し考えにくいと言えます。それなりの場所の確保、そういったものも必要になってくるだろうし、案としては考えられないことでもないかもしれませんが、現状としては中学校区単位で今のところは進めてまいりたいと思っております。</p>

220	桜が丘中学校区	17	再配置の方向性	小中学校の再編	地域との関係		学校の再編について、学区（地域や人数）等の再考はするのか。市内では、地域によって人数の差があり、今のままでは活性化できない地域も出てくるのではないか。	学区の見直しということについては、学区の見直しをしていく案もございます。先程申し上げたように中学校区はそのままの現状維持というところを考えている案もございます。今後、来年度策定委員会開きますので、そういった中で色々ご意見をいただきながら、最終的には市民の皆様からもご意見いただきながら決定していきたいと思っております。
221	桜が丘中学校区	18	再配置の方向性	小中学校の再編	通学		小中学校の再配置について、小中一貫校を9学区で目指しているのか。その場合、遠い地域からの交通の便はどうなるのか。	中学校区を基本に検討いたしますが、学区を見直す可能性もございます。遠距離からの登校の手段として、公共交通の活用やスクールバスを運用することも検討させていただきます。
222	桜が丘中学校区	19	再配置の方向性	小中学校の再編	再編の枠組み		小中学校の統廃合計画について、現状はどうなっているのか教えてほしい。	現在、教育委員会内に新たな学園づくり研究会を設けて、市長部局と連携しながら調査・研究を進めてまいります。この研究成果を基に来年度、学校再編計画策定委員会を組織して計画を策定していく予定であります。
223	桜が丘中学校区	20	再配置の方向性	小中学校の再編	検討の進め方		学校の統廃合はどのような手順を考えていますか。（どの程度進んでいますか。）一部の中学校区だけでなく、全市規模でデザインしていただきたい。	現在の進捗状況としましては、教育委員会で学校全体の小中学校の再編について計画を立てました。それが昨年度になります。それを基に今年度新たな学園づくり検討委員会という大学の有識者の方も入れた、教育委員会だけではなく市長部局の職員も入れ、関係する課の方が入りまして研究会を設けて検討をしているところでございます。つまり、教育委員会の中で考えるのではなくて、色々な立場の方も含めて色々な視点から検討を進めております。来年度、案が決まったところで、これは来年度になりますけれど、再編計画案について皆様にも知っていただいて、市民の皆様からご意見をいただきながら、さらに進めていくということになるわけですが、来年度、学校再編計画の策定委員会を立ち上げる予定でおります。状況としてはそういったところです。 市内全体を見てデザインをということなのですが、今現在ですが中学校区は9つありまして、9つの学園ということで掛川市は言っておりますので、次のご質問の中でも小中一貫教育は9中学校区で目指しているのかということですが、基本的には9中学校区で検討を進めております。中学校区9つございますが、小中学校の数で言いますと全てで31校になります。小学校・中学校合わせて市内31校、中学校が9校、小学校が22校ございます。それら全ての学校について見直しを図っていくことを基本としております。そうやって再編をしていきますと通学の距離が延びてしまう、そういったご心配があると思います。再編をしていきますと、遠い地域等の交通の便はどうなるのかということだと思いますが、これは遠い場所だと歩いても自転車でも通えないというケースが出てくると思います。そういった場合は、交通手段としては公共交通の活用できるところでは、スクールバスを用意して子供達の登下校ができるようなところも考えております。
224	桜が丘中学校区	21	説明会	説明内容	事例		紹介事例があった小中学校では、地域住民の施設利用度はどれくらい向上していますか。遠くなったとの声はありませんか。	紹介させていただいた三重県の小中学校については、円滑な利用が図られていると聞いております。また施設が遠くなると、車がない子供や高齢者に不便になると思いますので、掛川市でもスクールバスでの対応やそのスクールバスが路線バスを兼ねること等も検討していきたいと考えております。利用度がどのくらいというのが今ちょっと数字を持っておりませんので、また改めてホームページ上で、これについてお答えさせていただきたいと思っております。

225	桜が丘中学校区	22	再配置の方向性	跡地・空き施設			再配置計画の目標は建物に関することであるが、土地等の民間への払い下げによる負担軽減の考えはあるか。	現時点では、譲渡・売却を図ることを基本に考えております。ただし、それについても地域の皆様とご相談させていただきながら慎重に検討していきたいと思っています。
226	桜が丘中学校区	23	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		和田岡ふくし館はⅡ期廃止を検討とあるが、廃止後、現在のふくし館での活動はどうか。	学習センターや小中学校等、地域ごとに必要とする施設につきましては、集約して地域の拠点とすることを今現在考えております。和田岡ふくし館は、対応年数があと20年です。安全に利用できるいただける間にご活用をいただき、安全に使えなくなった時点で廃止の方向を現時点では考えております。その際、そのまま必要な機能については、小中学校再編とともに集約する施設の中に入れていくかどうか、地域の皆様に利用者の皆様と協議をして検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
227	桜が丘中学校区	24	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		和田岡ふくし館が廃止された場合、代わりになる建物を造るのか。	
228	桜が丘中学校区	25	再配置の方向性	個別施設	ふくし館		廃止検討（和田岡ふくし館）となる施設は、どのような基準に基づくのですか。地域の要望により、現在よりも賑わい、利用が高まるとか、別目的（防災など）の場合は、再検討されるようお願いしたい。	
229	桜が丘中学校区	26	検討の進め方	市民意見	合意形成		地域学習センター、小学校、学童保育所については、地域ごとに統合・複合化を検討するとあるが、具体的な進め方はどうするかを教えてください。	学校再編の枠組みの検討と並行して、それぞれの地域に関係する皆様と協議をし検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
230	桜が丘中学校区	27	説明会	説明内容			中学校区だけでなく、全体に関する施設は？	資料4の黄色のところです。資料4の3つの考え方で説明させていただきました。黄色の用途別の部分は市が施設の設置かつ運営に関与することが必要であると考えられる施設でありますので、いわゆる本当に全市的に配置検討をしていきたいと思っております。
231	桜が丘中学校区	28	説明会	運営			本質問カードへの返答に対し、再質問、再返答はあるのか。無い場合、せめて再質問用紙の提出とホームページ等での回答はできないか。	再質問用紙につきましては、本日の用紙でご提出をいただければと思います。また、用紙が不足する場合には、申し訳ありませんが係の方におっしゃっていただければと思います。それからホームページ等での回答はできないかというご質問ですが、ホームページ等も今回9中学校区への説明会が終わりますので、全ての回答をホームページの方に掲載させていただく予定でおりますので、よろしくお願いいたします。

232	桜が丘中学校区	29	再配置の方向性	目標設定	根拠	<p>今後50年間で延べ床面積を25%縮減（目標）とありましたが、人口減少のことを含めての縮減でしょうか。人口増加を今後見込んでいるのであれば、縮減しすぎではないでしょうか。</p>	<p>人口動態を含め、試算をさせていただいております。先程申し上げていますように長期の計画でありますので、今後計画については、社会経済情勢の変動等を見据えながら、10年ごとに計画の見直しを考えていきたいと思っております。</p>
233	桜が丘中学校区	30	再配置の方向性	検討時に考慮すべきこと	機能	<p>公共施設の用途を固定的に考えないで、全ての公共施設に本来用途とは別に、コミュニティの場、災害時の避難所、同物資・人員・情報の集散基地、文化行事や市民の諸活動のスペース等の機能があると考えますが、施設の廃止、統合（縮小）、売却の検討時に、こういった面からの検討はなされているか。</p>	<p>コミュニティの場、災害時の拠点という点も大事な機能であると考えております。こういった点も含めて検討して、今回素案という形でご説明をさせていただいております。一番大事なのは、地域の皆様とこういった機能やご要望について、ご相談をすることだと考えております。個別の案件を進めていく際には、関係の皆様とよくご相談させていただきたいと思っております。</p>